

Title	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアによる“I Have a Dream”演説の構造と内容
Author(s)	森田, 美千代
Citation	キリスト教と諸学 : 論集, Volume27, 2012.3 : 221-238
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3905
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

マーティン・ルーサー・キング・ジュニアによる
“I Have a Dream”演説の構造と内容

森 田 美千代

一 はじめに

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア (Martin Luther King, Jr., 1929-1968) による「夢」演説や説教は、本稿の題目に掲げた“*I Have a Dream*”演説だけではない。一九五九年から、銃殺されて亡くなる直前の一九六八年まで、キングは、複数回に亘って「夢」に関する演説や説教をしている¹⁾。しかし何といっても、一九六三年の“*I Have a Dream*”演説は、キングの「夢」演説や説教のなかでも、最も有名であり、いまだにアメリカ人のみならず世界の人々が記憶している演説である。

本稿は、キングによる一九六三年の“*I Have a Dream*”演説の構造と内容を明らかにすることを目的とする。そうするにあたって、次の点を事前に確認しておきたい。

第一点は、“*I Have a Dream*”の日本語訳である。日本におけるキング研究の第一人者である梶原寿は、次のように述べている。

一般にこのフレーズに対応する邦訳語は「私には夢がある」であるとされている。しかし（中略）、筆者〔梶原〕はその訳語はあくまで「私は夢をもつ」でなければならぬと考える。「私には夢がある」という日本語の表現の含意は、余りにも静的で、自然発生的である。しかしキングのこの言葉に込めた含意は、絶望的な外的条件「にもかかわらず」、なお「夢」を持つとうとする、否持たざるを得ない動的な意志である^②。

本稿の筆者も、梶原にしたがって、「I Have a Dream」の日本語訳は、「私は夢をもつ」とすることを、最初にことわっておきたい。

第二点は、「I Have a Dream」演説がどのような経緯と設定でなされたかについてである。この演説は、「仕事と自由のためのワシントン行進における演説」としてなされた。しばしば誤解されるのであるが、キングがこの「ワシントン行進」を発案したと思われる。しかし、実際はA・フィリップ・ランドルフ（A. Philip Randolph, 1889-1979）が発案したのである。また、最初は主として「仕事」に焦点を置いていたが、「パーミングハム運動」におけるキングの成功の結果、その方向を自由に向け直して、「仕事と自由のためのワシントン行進」となった^③。さらに、この演説は、アブラハム・リンカーン（Abraham Lincoln, 1809-1865）が「奴隷解放宣言（Emancipation Proclamation）」に署名してからちょうど百年後の一九六三年八月二十八日に、ワシントンD・Cのリンカーン記念堂にてなされた演説である。以上の経緯と設定を確認しておくことは、「I Have a Dream」演説の構造と内容を理解するうえで、重要である。

Ⅰ “I Have a Dream” 演説の構造

“I Have a Dream” 演説は、前半と後半の二つの部分に分かれていると見なすことができる。その二つの部分に分かたれる分水嶺と言うべきところは、どこか。それは、キングが次のように述べているところである。

だから私は今日あなたがたに申し上げたい。今日も、そして明日もわれわれが困難に直面するとしても、私はなお (still) 夢をもつのだということ⁽⁴⁾を。それはアメリカの夢に深く根ざした夢である。

なぜ、以上の引用部分が、“I Have a Dream” 演説の分水嶺とすることができるのか。それには、いくつかの理由を挙げることができる。

まず、以上の引用部分から、その前の部分つまり前半の部分は、夢をもちえない状況すなわち「悪夢」の状況について語っているに違いないと、無理なく推し量ることができる。つまり、以上の引用部分を境にして、前半部分は「悪夢」について、後半部分は「夢」について、この演説は述べているということがわかる。

次に、『マーティン・ルーサー・キング自伝 (The Autobiography of Martin Luther King, Jr.)』を編集したクレイボーン・カーソン (Clayborne Carson) が以下のように記していることも、以上の引用部分が分水嶺と言える理由である。

私〔キング〕は演説を読むことから始めた。そしてある点まではそのまま読んでいった。その日聴衆の反応はすばらしかった。すると突然こんなことが起こった。先の六月のことであるが、ミシガン州デトロイトのダウンタウンの街頭を数千人の人々と共に平和的なデモ行進をした後で、私はコーボー・ホールで演説したことがあった。そしてその中で「私は夢をもっている」という言葉を用いていた。このように私はこの言葉を以前に何回も用いていた。そこで、ここでもその言葉を使いたいと思っただけである。なぜなのかは分からない。この演説前にはそんなことは考えていなかった。ともかく私はこの言葉を使った。そしてその時点で私は原稿から完全に離れてしまい、二度とそこには戻らなかった⁵⁾。

上記の引用は、「I Have a Dream」演説の構造的分水嶺の場所を示す理由としては十分である。しかし、正確な根拠を指し示している資料としては弱い。それは、この資料が、建前としてはキングの自伝からのものであるが、実際はカーソンがキングを想定して書いたものだからである。

デイヴィッド・ギャロウ (David Garrow) は、上記のカーソンと内容においては同様のことを述べているが、カーソンよりも、より正確でかつ具体的である。ギャロウは、次のように記す。

「私〔キング〕は演説を読み始めた」と、彼〔キング〕は三か月後の私的なインタビューで思い出している。それから、「ただまったく突然——聴衆の反応はその日すばらしかったので——突然、私がかれまで使ったことがある言い回し——それを私は以前に何度も使っており、「よって」「私は夢をもつ」というフレーズ——が思い浮かんだ。だからそれをここでも使いたいと感じただけである。何故だか分からない。演説を始める

前までではそのようなフレーズを使うことは考えてはいなかった」と、キングはインタビューで思い出している。そこで彼は準備した原稿を捨て、即席に (extemporaneously) 「演説を」進めた。彼は同じ結語 (peroration) を以前にも使っていた——四月はじめにバーミングハムでの大衆集会で、また六月にデトロイトの巨大な市民権行進の演説において。⁶⁾

「I Have a Dream」演説を、何(誰)の助けを借りずに読み進んでいっても、あるいはカーソンやギャロウの助けを借りても、本稿筆者が示した箇所が、この演説を二分する分水嶺であるというのは、確かに言えることであろう。

III “I Have a Dream”演説の内容

二において、「I Have a Dream」演説の基本構造は、前半の部分と後半の部分の二つに分けることができることを指摘した。したがって、内容も、その基本構造に基づいて、考察していくことにする。

1 前半の部分

「I Have a Dream」演説は、アブラハム・リンカーンに言及することから始まっている。これは、「時」といい「場所」といい「内容」といい、まことにまことな演説開始であると言うことができる。リンカーンは、一八六三年一月に「奴隷解放宣言 (Emancipation Proclamation)」を發布し、同年十一月に「ゲティスバーグ演説 (Gettysburg Address)」を行っている。「奴隷解放宣言」は、以下のような文言で始まっている。

さきに我らの主の一八六二年九月二二日に、合衆国大統領により左記の事項を含む布告が発せられた。

「我らの主の一八六三年一月一日に、合衆国に対し謀反の状態にある州あるいは州の指定地域の内に、奴隷として所有されているすべての人々は、同日以後永久に自由を与えられる。(中略)合衆国政府は、かかる人々の自由を承認し保護するであろう、又かかる人々がその実際の自由を獲んためにする努力を抑制するいかなる行動にもでないであろう。(後略)」⁽⁷⁾

「ゲティスバーグ演説」は、次のように始まっている。

八七年前に (Four score and seven years ago) ‘我等の父祖達は、自由 (Liberty) の精神にはぐくまれ、すべての人は平等 (equal) につくられている」という信条に捧げられた、新しい国家を、この大陸に打建てました。⁽⁸⁾

キングの “I Have a Dream” 演説は、リンカーンの奴隷解放宣言 (一八六三年) から丁度百年後の一九六三年に、リンカーン記念堂で、リンカーンのゲティスバーグ演説を想起させるがごとくに、なされた。キングは、語り始める。「今から百年前、われわれが今日その人物像のもとに立っている一人の偉大なアメリカ人 (リンカーンのこと) が、奴隷解放宣言に署名した」⁽⁹⁾。キングは、「百年前」を Five score years ago と表現している。これは明らかに、リンカーンのゲティスバーグ演説を、キングが意識していたと言つてよい。つまり、キングは、奴隷解放宣言とゲティスバーグ演説という、まことに最適な土台を足がかりとして演説を開始した。

「しかし百年たった今も (one hundred years later)」、まだ黒人は自由 (free) ではない」と、キングは言う。キングは、「百年たった今も」という言い回しを、一つの節のなかで四回も繰り返して使っている。

「それゆえわれわれは今日、この恥ずべき状況を劇的に描き出すために集まった」と、キングは語りかける。具体的には、第一に「われわれは、この国の首都に小切手を現金化するために来た」と言う。キングの演説を引用すれば、次のようになる。

わが共和国の創設者たちが（中略）憲法と独立宣言を書いた時、彼らはその中に、すべてのアメリカ人が享受すべき約束手形に署名したのである。その約束手形とは、すべての人々、つまり白人たちと同様に黒人たちにも、生命、自由、幸福追求の譲渡すべからざる権利を保証するものであった。しかし、（中略）アメリカは、黒人に対して不渡り小切手を切ったのだ。（中略）だからわれわれは、この小切手を現金化するためにここにやって来たのだ。¹³

第二に、キングは、「われわれはまた、アメリカという国に、今しかないという緊急性 (the fierce urgency of now) を認識させる為に、この聖なる場所にやってきた」と言う。この直後にキングは、「今こそ (Now is the time)」というフレーズをたたみ込むようにして四回も繰り返して使っている。このようにして、事態の緊急性を強調している。次に、キングは、「いつになったら、黒人は満足するのか」と問う人々（主に白人）に向かって、旧約聖書のアモス書第五章二四節を引用して、正義 (justice) が洪水のように流れ、神の義 (righteousness) が大河のごとく尽きることなく流れるようになるまでは、黒人が満足することはありえない、と言う。¹⁴

黒崎真は、「I Have a Dream」演説における正義の強調を指摘している。彼は言う。「実際、同演説〔「I Have a Dream」演説〕において、『愛 (Love)』という言葉は一度も使用されていない。これに対し『不正 (injustice)』という言葉は三回、『正義 (justice)』という言葉は実に八回も使用されている」と指摘している。⁽¹⁶⁾キングは「イエスの愛」を強調した人と思なされるが、彼は実際にはそれと同じように「神の正義」をも強調した人である。

これまでのところは、キングは、いわば黒人を代表する者として、ワシントン行進に参加している白人と黒人に向かつてスピーチをしている。しかし、ここからあとは、黒人に向かつて語りかけている。キングは、「しかしここで私〔キング〕は、正義の宮殿の暖かい入り口に立っている**わが同胞 (my people)**に伝えなければならぬ⁽¹⁷⁾」と
言う。

黒人同胞に伝えたいこととして、キングは三つのことを挙げている。第一は、筆者のことばで言えば、牧師であるキングが率いる人権運動は、白人を打ち負かすことをねらいとするものでは決してない、ということである。キングは、そのことを以下のごとくに表現している。

われわれの正しい場所に到達する過程で、われわれは間違った行動を犯してはならない。自由を求めるあまり、恨みや憎悪の杯を口にしてはならない。われわれはたえず尊厳と規律の高みで闘わなければならない。われわれは創造的抗議の運動を進めるにあたって、物理的暴力に陥ってはならない。(中略)そして今、黒人共同体を呑み込んでいる新しい戦闘的精神が、白人すべてを信頼しなくなるようなことになってはならない。⁽¹⁸⁾

第二に、キングは、「苦難をくぐり抜けてワシントン行進にやってきた人々〔黒人の人々〕がいることを知ってい

る」と言っただうえで、彼らに対して、「自ら招かざる苦難 (suffering) (創造的苦難 (creative suffering) でもある) は贖罪的 (redemptive) である」と信じて闘い続けよう」と、励ましている。

第三に、キングは、黒人たちに向かつて、自らの共同体に帰っていくことを勧めている。彼は言う。「ミシシッピに、アラバマに、戻るのだ。サウスカロライナに、ジョージアに、またルイジアナに、戻るのだ。(中略) 北部の町のスラムやゲットーに戻るのだ」²⁰。キングは、なぜ自らの共同体に帰っていくことを、勧めたのか。コーンによれば、黒人たちがワシントンにやってきた課題を果たすように、キングは彼らに自らの共同体に帰るように勧めた(実際は励ました)²¹。コーンの言っていることと同じであるが、ハンセンによれば、キングの演説によって示された夢を実現するために、である。²²

2 後半の部分

後半の部分は、次のところから始まる。

だから私は今日あなたがたに申し上げたい。今日も、そして明日もわれわれが困難に直面するとしても、私はなお夢をもつのだ (I still have a dream) ということを。それはアメリカの夢 (the American dream) に深く根ざした夢である。²³

ここで確認しておきたい、そして重要なことは、キングの言う「夢」は、「アメリカの夢」に根ざしているということである。

「アメリカの夢に根ざしている」とは、どういうことか。キングは、次のように述べている。

いつの日かこの国が立ち上がって「我らは、これらの真理を自明のものとして承認する。すなわち、全ての人は平等 (equal) につくられている」というあのわが国の信条のもつ真の意味を生きるようになるであろうという夢である。⁽²³⁾

いつの日か、すべての谷は隆起し、丘や山は低地となる。荒れ地は平らになり、歪んだ地も真っ直ぐになり、そして主の栄光が現れる。その光景を肉なる者が見るといふ夢である。⁽²⁴⁾

前者には、一七七六年に出された独立宣言の一部が取り入れられている。ここで独立宣言の全部を記すことはないが、キングによつて引用された句は、「われわれは、自明の真理として、すべての人は平等に造られ、造物主によつて、一定の奪い難い天賦の権利を付与され、その中に生命、自由及び幸福の追求の含まれることを信ずる」という独立宣言の一文から、取られている。後者は、イザヤ書第四〇章四―五節である。つまり、キングの言う「夢」が「アメリカの夢」に根ざしているとは、アメリカ独立宣言および聖書（キリスト教）に根ざしているということであると云つてよい。

黒崎は、そのことを、次のように換言している。「アメリカの夢」とは「アメリカ建国の理念」のことであり、「アメリカ建国の理念」とは、「ユダヤ―キリスト教の伝統」と「独立宣言と憲法に述べられている民主主義の精神」のことである。⁽²⁷⁾

アメリカ独立宣言と聖書（キリスト教）という二つの普遍的な夢を枠構造として、そのあいだに四つの具体的な夢を、キングは挿入している。それらは、以下のごとくである。

私は夢をもつ。いつの日かジョージアの赤土の丘の上で、かつての奴隷の子孫とかつての奴隷主の子孫が、兄弟愛のテーブルに仲良く座ることができるようになるという夢⁽²⁸⁾。

私は夢をもつ。今、不正義と抑圧の炎熱に焼かれているミシシッピ州でさえ、自由と正義のオアシスに生まれ変わるだろうという夢⁽²⁹⁾。

私は夢をもつ。今は小さな私の四人の子どもたちが、いつの日か肌の色ではなく内なる人格で評価される国に住めるようになるという夢を。私は今日夢をもつ⁽³⁰⁾。

私は夢をもつ。悪意ある人種差別主義者や、「介入 (interposition)」とか「無効化 (nullification)」⁽³¹⁾という言葉で唇をぬらしている州知事がいるアラバマ州でさえ、いつの日か、幼い黒人の少女少女が、幼い白人の少女少女と手に手をとって姉妹兄弟となることができるという夢を。私は今日、夢をもつ⁽³²⁾。

早瀬光秋は、上記のことについて、述べている。それを、筆者が要約すれば、以下のようになる。枠構造をなし
ている二つの夢は、「一般のおよび全般的 (general and overall)」であり、この二つの夢には「特定の場所や人

(specific places or persons)」は出していない。それゆえ、この二つの夢は、「準拠枠 (a frame of reference)」を提供しているということが出来る。それに対して、他の四つの夢には、「実際の人と場所 (actual persons and places)」が出てくる。それゆえ、この四つの夢は、「準拠枠 (a frame of reference)」内で、具体的に思い描く (visualize) ことができる夢である。⁽³³⁾

これまで述べてきたキングの「夢」は、「希望 (hope)」と言い換えることもできるし、また「信仰 (faith)」とも換言できる。それは、前半部分の最後を、キングは、「絶望の谷に彷徨うのはもうやめよう」という言葉で終え、後半部分の最初を「夢」について語った直後に、キングは、「これ (これまで述べてきた夢) がわれわれの希望なのだ」と、言っているからである。(筆者は、二においては、前半部分は悪夢について、後半部分は夢について、この演説は述べているとも指摘した)。「希望」を「信仰」と言い換えることができるのは、キングが、「希望」のすぐあとに、「この信仰をもって (with this faith)」と言い換えているからである。⁽³⁴⁾

ちなみに、「この信仰をもって」という表現を、キングは、一節のなかに三回も使っている。つまり、「この信仰をもってわたし (キング) は南部に帰っていく (「帰る」というフレーズがキングの重要な思想を表していることについてはすでに述べた)」、「この信仰をもってすれば、われわれは絶望の山から希望の石を切り出すことができ、この国 (アメリカ) の不協和音を交響曲に作り替えることができる」、「この信仰をもってすれば、われわれは共に自由のために立ち上ることが出来る」⁽³⁵⁾。

そのとき、キングは、旧アメリカ国歌を歌うことができるだろうと、言う。すなわち、「わが祖国、そは汝のもの、麗しき自由の国、我は汝を称う。わが父祖たちの死せる国、巡礼父祖の誇れる国、さらばすべての山々から自由の鐘を鳴り響かせよ！」⁽³⁷⁾と。「すべての山々から」とは、たとえば、「ニューハンプシャーの巨大な丘の頂から」「ニュー

ヨークの雄々しき山々から」「ペンシルベニアのそそり立つアレゲニーの山脈から」「コロラドの雪をいただいたロッキー山脈から」「カリフォルニアの曲がりくねった坂道から」「ジョージア州のストーン・マウンテンから」「テネシー州のルックアウト・マウンテンから」「ミシシッピのすべての丘やモグラ塚から」⁽³⁸⁾であると、キングは具体例をもって示している。つまり、アメリカの国の隅々から、自由の鐘を鳴り響かせよと、キングは言う。

そうすれば、つまり、アメリカの国の隅々から自由の鐘を鳴り響かせれば、黒人であれ白人であれ、ユダヤ人であれ異邦人であれ、プロテスタントであれカトリックであれ、すべての人が、「ついに自由だ！ついに自由だ！全能の神に感謝します、われらはついに自由になった！」⁽³⁹⁾と歌うことができるだろうと言って、キングは“I Have a Dream”演説を終えている。

この最後の部分を、どう読むべきなのだろうか。梶原は、次のように述べている。「聴衆はたとい一瞬の出来事であったとはいえ、まさに神の終末論的出来事を予め味わうことができたのである」。つまり、演説の最後の部分は、「予め味わう終末論的希望の成就である」と、梶原は解釈している。⁽⁴⁰⁾

黒崎真も、梶原の解釈を踏襲している。黒崎は、次のごとくに述べる。

キングが約束された未来の地点から説くことによつて、聴衆にはキングの演説の出来事自体の中で自由がどんな味か前もつて与えられたのであつた。聴衆は（中略）演説が終わつた瞬間、一瞬の出来事であつたとはいえ、自由が本当に到来しつとあるという「深い霊的体験」を共有することができたのである。「少しの間、あなたも神の国が地上に出現したかのように思われた」というキングの妻コレッタの言葉は、この点を端的に裏付けるものである。⁽⁴¹⁾

本稿の筆者も、梶原と黒崎の解釈を踏襲したい。つまり、「I Have a Dream」演説の最後の部分は、神の終末論的出来事を、一瞬であったとしても、聴衆（特に黒人）は予め味わうことができたことを示している部分である、と解釈したい。

四 おわりに

「I Have a Dream」演説の基本構造は、前半と後半の二つの部分に分けることができること、そしてその箇所はどこであるかを、筆者自身の読みと、カーソンやギャロウの引用をもとにして、指摘した。

「I Have a Dream」演説の内容に関する特徴として、以下の諸点を明らかにした。まず、キングの言う「夢」は、「アメリカの夢」に根ざしているということである。「アメリカの夢」に根ざしているとは、「アメリカ独立宣言やアメリカ憲法」および「聖書（キリスト教）」に根ざしているということである。言い換えれば、「アメリカ建国の理念（黒崎）」に根ざしているということができる。また、キングの「夢」は、「希望」や「信仰」とも言い換えることができる。

次に、「I Have a Dream」演説においては、「愛 (Love)」よりも「正義 (Justice)」が強調されている。キングは「イエスの愛」を強調した人と見なされることが多いが、彼は実際には「神の正義」も強調した人である。

キングは、アブラハム・リンカーンによる「奴隷解放宣言」と「ゲティスバーグ演説」を足がかりにして、演説を始めている。これは、まことにみごとな演説開始と言える。

“I Have a Dream”演説においても、キングは、黒人同胞に「戒め」と「励まし」を与えている（“I Have a Dream”演説だけではなく、ほとんどの演説と説教において、そうである）。この点が、キングがマルコムXと違うところであると、言えないだろうか。

黒人同胞に、自らの共同体に戻ることを勧めているのも、“I Have a Dream”演説の内容に関する特徴のひとつであろう。黒人は自らの共同体に帰り、そこで「夢」を実現しなければならぬと、キングは考えている。

“I Have a Dream”演説の最後の部分は、神の終末論的出来事を一瞬であったとしても聴衆（特に黒人）は予め味わうことができたことを示している、と言える。

最後に今後の課題を二点挙げておきたい。第一点は、本稿執筆後も、キングがそもそも「夢」思想をなぜ・どのように抱くようになったかをつかみきれていないことである。その点に関する究明を今後しなければならぬ。第二点は、キングが「平等」の概念をどのように考えているのだろうかという点である。“I Have a Dream”演説においてもそうであるが、キングにおいては、「自由」の概念が圧倒的に多く出てくるのに対して、「平等」の概念はそれほど出てこない。それはなぜか。この点も、今後の課題として残っている。

注

(1) ジェイムズ・H・コーンは、『アメリカの夢』という言葉は、一九五〇年代末のマーティン・キングの演説から現れ始めている。彼は一九五九年五月十一日にワシントンD・Cのシエラトン・パーク・ホテルで開催された、政府契約に関する委員会の会合での講演において、リチャード・ニクソン副大統領の前で、『わがアメリカ民主主義の夢』について語った」と、記している。James H. Cone, *Martin & Malcolm & America: A Dream or a Nightmare* (New York: Orbis

- Books, 1991), 66; ジェイムズ・H・コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』梶原寿訳、日本基督教団出版局、一九九六年、一〇二頁。
- (2) 梶原寿「キング牧師と今日のアメリカ——“I Have a Dream” Speechの意味——」『名古屋学院大学論集 人文・自然科学編』第三二巻第二号、名古屋学院大学、一九九五年、一一頁。
- (3) Cone, 82; コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』、一二三頁。
- (4) Martin Luther King, Jr., *A Call to Conscience: The Landmark Speeches of Dr. Martin Luther King, Jr.*, ed. Clayborne Carson and Kris Shepard (New York: Intellectual Properties Management, Inc. and Grand Central Publishing, 2001), 85; マーティン・ルーサー・キング・ジュニア『私には夢がある』クレイボーン・カーソン、クリス・シエパード編、梶原寿監訳、新教出版社、二〇〇三年、一〇三頁。
- (5) Clayborne Carson, ed., *The Autobiography of Martin Luther King, Jr.* (New York: Intellectual Properties Management, Inc. and Warner Books, 1998), 223; クレイボーン・カーソン編『マーティン・ルーサー・キング自伝』梶原寿訳、日本基督教団出版局、二〇〇一年、二六七頁。
- (6) David J. Garrow, *Bearing the Cross: Martin Luther King, Jr. and the Southern Christian Leadership Conference* (New York: Vintage Books, 1988), 283.
- (7) アメリカ学会訳編『原典アメリカ史』第四巻、岩波書店、昭和三〇年、八四頁。
- (8) 同書、八六頁。
- (9) King, *A Call to Conscience*, 81; キング『私には夢がある』、九九頁。
- (10) *Ibid.*, 81; 同書、九九頁。
- (11) *Ibid.*, 81; 同書、九九—一〇〇頁。
- (12) *Ibid.*, 81-82; 同書、一〇〇頁。
- (13) *Ibid.*, 82; 同書、一〇〇頁。
- (14) *Ibid.*, 82; 同書、一〇〇頁。
- (15) *Ibid.*, 84; 同書、一〇二頁。

- (16) 黒崎真「説教としての“I Have a Dream”演説——キング牧師と黒人キリスト教信仰の伝統——」『異文化コミュニケーション研究』第一六号、神田外国語大学、三三二頁。
- (17) King, *A Call to Conscience*, 83；キング『私には夢がある』、一〇一頁。
- (18) *Ibid.*, 83；同書、一〇一頁。
- (19) *Ibid.*, 84；同書、一〇二—一〇三頁。
- (20) *Ibid.*, 84；同書、一〇三頁。
- (21) Cone, 84；コーン、一二六頁。
- (22) Drew D. Hansen, *The Dream: Martin Luther King, Jr., and the Speech that Inspired a Nation* (New York: Harper Collins Publishers, 2003), 162.
- (23) King, *A Call to Conscience*, 85；キング『私には夢がある』、一〇三頁。
- (24) *Ibid.*, 85；同書、一〇三頁。
- (25) *Ibid.*, 85-86；同書、一〇四頁。
- (26) アメリカ学会訳編『原典アメリカ史』第二巻、岩波書店、昭和二六年、一八七頁。
- (27) 黒崎、二六—三〇頁。
- (28) King, *A Call to Conscience*, 85；キング『私には夢がある』、一〇三頁。
- (29) *Ibid.*, 85；同書、一〇三頁。
- (30) *Ibid.*, 85；同書、一〇三—一〇四頁。
- (31) 梶原の訳注によれば、『介入』とは公教育における人種隔離を違憲とした一九五四年最高裁『ブラウン判決』に対して州知事が反対の介入をすることであり、『無効化』とはその判決の効果を反対運動によって失わせることである。
- (32) King, *A Call to Conscience*, 85；キング『私には夢がある』、一〇四頁。
- (33) Mitsuaki Hayase, “A Rhetorical Criticism of Martin Luther King, Jr.’s “I Have a Dream,” in 『関西外国語大学研究論集』一
二号、昭和四二年、八一—八二頁。
- (34) King, *A Call to Conscience*, 86；キング『私には夢がある』、一〇四頁。

- (35) *Ibid.*, 86: 同書、一〇四頁。
- (36) S・F・スミス作詞、H・カーリー作曲によって、一八三一年に制定された。
- (37) *King, A Call to Conscience*, 86: キング『私には夢がある』、一〇四頁。ここでは、「巡礼父祖の誇れる国」について、キングは何も言っていないが、「バーミングハムの獄中からの手紙」のなかでは、「巡礼父祖たちがプリマスに上陸する前から、私たちはここにいました。ジェファースンのベンが独立宣言の荘嚴な言葉を歴史のページを越えて書き留める前から、私たちはここにいました」と、キングは記している。
- (38) *King, A Call to Conscience*, 86-87: キング『私には夢がある』、一〇五頁。
- (39) *Ibid.*, 87: 同書、一〇五頁。
- (40) 梶原寿『マーティン・L・キング』清水書院、一九九一年、一六七頁、一六九頁。
- (41) 黒崎、四一頁。Coretta Scott King, *My Life with Martin Luther King, Jr.* (London: Hodder and Stoughton, 1970), 254.